

香川県留学生等国際交流連絡協議会
設立30周年記念誌





30周年記念誌発刊にあたり

香川県留学生等国際交流連絡協議会会長
香川大学長 寛 善 行

昭和62年に発足した香川県留学生等国際交流連絡協議会は、このたび30周年を迎えることになりました。現在、県内高等教育機関や自治体、国際交流団体、企業等、50を超える団体により構成されております。構成団体の皆様におかれましては、平素から当協議会の活動に多大なるご協力をいただいておりますことを、心より御礼申し上げます。

当協議会が設立された頃、日本国内では留学生10万人計画の下、外国からの留学生受け入れ拡大を図っているところでした。昭和62年当時、日本に学んでいた外国人留学生は2万2千人あまりでした。それが現在では留学生受入30万人を目標に受け入れ拡大を目指しており、平成28年度時点での日本国内における外国人留学生の数は24万人に迫ろうとしています。

香川県内における外国人留学生数も増加してきており、香川県全体では約500名の留学生が学んでいます。私が学長を務める香川大学におきましても、平成29年5月時点で在籍する外国人留学生は216人に上っており、数年先には受け入れ数を400人程度に増やしたいと思っております。

このように外国人留学生の数が増えていく中、彼らが安心して勉学に励み、やがて社会へ巣立っていくために、彼らを取り巻く地域の方々の協力は必要不可欠であります。当協議会では毎年、地域の方々と交流を図り、日本の家庭での生活を知る機会となるホームビジットや、彼らが日本語を学んできた成果を示すとともに、普段感じていることや考えていることを発信する機会となる作文コンテストなどを実施しています。また近年は、日本国内、とりわけ香川県内での就職を希望する留学生のための支援にも力を入れております。留学生が香川県内の企業を訪問する機会を設けるほか、県内企業への就職を希望する留学生と企業関係者が交流する場の提供、さらに県内企業において留学生を採用する際に課題となる事項についてその解決策を提供するセミナー等を実施しています。

30周年を記念して発行する本記念誌では、発足から現在までの歩みのほか、各構成団体の紹介なども掲載しております。長年に亘り当協議会の活動にご参画いただいている皆様におかれましては、懐かしさを感じながら改めてこれまでの歩みを振り返っていただき、最近ご参画いただいた皆様におかれましては、当協議会やその構成団体についてより深く知っていただく一助にしていいただければと存じます。

これまでの皆様のご尽力に改めて感謝申し上げますとともに、今後においても末永くご支援を賜りますことをお願いし、私からのご挨拶とさせていただきます。

設立 30 周年をお祝いして

香川県留学生等国際交流連絡協議会運営委員長

香川大学副学長（国際戦略・グローバル環境整備担当）

徳田 雅明



香川県留学生等国際交流連絡協議会は、設立 30 周年を迎えました。設立の目的は、「香川県内に滞在する外国人留学生・研修生等間の交流とこれら留学生等と地域住民との交流を通じて、相互の親睦を深めるために必要な連絡並びに協議を行う」こととしており、その達成のために県内の国際交流活動を行う多くの団体に加盟していただいております。


総会等の開催による構成団体間の情報交換を行いながら、外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談会の開催や、外国人留学生作文コンテスト、留学生を対象とする生活及び就職支援事業、留学生を対象とするホームビジットなどの事業を行っております。留学生に寄り添い、彼らを支援し、香川の歴史や文化にも接してもらうことで、彼らが香川県で学び、生活して良かったと感じてもらえたらと思います。そのことが卒業後に香川県内にする道を選んだり、帰国した後も香川のことを忘れず同僚や後輩に香川への留学を勧めてくれることに繋がることでしょうか。

私も自分自身が 30 余年前に一留学生であった時に、同僚のカナダ人や地域の人たちにさまざまな交流の機会に誘ってもらい、一緒に参加活動することにより、いろいろな人と出会うことができ、自分の住んでいる町の歴史や文化を知り、町のお祭りやスポーツ活動にも参加することができました。それらは私の留学生活に潤いを与えてくれ、仕事（研究）以外にも外国に滞在することの価値を付加してくれ、孤独を感じている暇がないほどでした。それと同時に、自国について話をする機会が増えたことで、日本人としての意識を強めてくれました。本協議会および個々の加盟団体の活動は、このような機会を提供していただいていると確信しています。

どのような機関、団体も 30 年の長きに渡り継続することは、容易ではありません。それだけの必要性があり役割を果たしてきたからに違いありません。本協議会創設時の趣旨を確認し、その後 30 年間の世界情勢や社会情勢に対応し変化してきた役割についても確認したいと思います。そして今後の本協議会の在り方についても考える機会となれば幸いです。そして私共香川大学も事務局として、留学生と地域の人たちを結ぶための歯車としての役目を適切かつしっかりと果たして参ります。

結びに、構成団体の皆様方のご厚情とご支援に対して、心よりの御礼を申し上げますとともに、これからも引き続きお力をお貸しいただきますよう、お願い申し上げます。

協議会のあゆみ

- 
- 昭和62年 香川県留学生等連絡協議会設立
 - 平成7年 留学生国際シンポジウム開催
 - 平成10年 協議会設立10周年記念留学生交流シンポジウム開催
 - 平成14年 会費に関する申しあわせ決定
 - 平成16年 作文コンテスト事業開始
 - 平成19年 香川地区留学生等の日本語によるシンポジウム開催
 - 平成22年 かがわ国際フェスタ参加開始
企業見学会事業開始
 - 平成24年 ホームビジット事業開始
 - 平成25年 就職支援部会設置、「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業」の実施(※1)
留学生地域交流事業「外国人留学生が興す『瀬戸内国際芸術祭 2013』と国際交流」
採択(※2)
 - 平成26年 シンポジウム「留学生と地域でつくる国際交流」ー外国人留学生が瀬戸内芸術祭から
学んだことー開催
「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業」の実施(※1)
 - 平成27年 留学生地域交流事業「留学生と地域企業をつなぐ就職関連支援」採択(※2)
 - 平成28年 留学生地域交流事業「留学生と地域企業をつなぐ就職関連支援」採択(※2)
 - 平成29年 会費に関する申しあわせ改正
留学生地域交流事業「留学生と地域企業をつなぐ就職関連支援」採択(※2)
 - 平成30年 協議会設立30周年記念行事開催

(※1) 経済産業省中小企業庁全国中小企業団体中央会補助事業

(※2) 公益財団法人中島記念国際交流財団助成による

実施事業紹介

1. 総会

毎年6月中下旬に開催し、前年度実施事業報告及び決算、当該年度実施事業計画及び予算について審議を行う。総会に諮るにあたり、5月に運営委員会及び就職支援部会を開催し、事前審議を行っている。



昭和62年開催の様子



平成29年開催の様子

2. 作文コンテストの実施、作文コンテスト表彰式の実施

平成16年度より毎年開催され、平成29年度は第14回にあたる。提示される2つのテーマのいずれかを選択し、1～3に設定されたレベルに応じて募集する。4名の委員による審査が行われ、1月の表彰式で発表される。

表彰式開催にあわせ、ホームビジットの報告会や留学生所属校による活動報告会、交流会などを実施することもある。



第13回作文コンテスト表彰式の様子



ホームビジット報告会の様子

3. 外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談会

毎年8月上旬に高松入国管理局から審査官や行政書士をお招きし、講演を実施している。平成25年度からは、就職支援事業として参加対象を企業人事担当者にも拡大している。



入国管理局首席審査官による講演の様子



行政書士による講演の様子

4. 留学生を対象とする香川県下企業の見学会

平成22年度より毎年1月に開催され、県内の留学生等採用実績がある、もしくは今後の採用予定がある企業を訪問し、日本企業に対する理解を深め、就職後の自らのワークスタイルを考える契機として、就職活動のための知識を習得させる。



H28年度(株)タダノ見学の様子



H27年度日プラ株式会社見学の様子

5. 県内での国際文化交流行事への参画

平成22年度より、(公財)香川県国際交流協会(以下、「県国際交流協会」という。)で実施される「かがわ国際フェスタ」において、協議会の活動を紹介するパネルを掲示している。

6. 留学生を対象とするホームビジット

平成24年度より、年に2回県国際交流協会に登録しているボランティア家庭を訪問する機会を設けている。参加を希望する学生はガイダンスを受け、マッチングされたホストファミリーと対面し、ビジット日を迎える。訪問した学生、受け入れた家庭双方にレポートを提出してもらい、報告会や県国際交流協会が発行する印刷物等で活動を報告している。



対面式の様子

7. 就職支援事業の実施

平成25年度に就職支援部会が設置され、平成25、26年度は「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業」として、平成27年度以降は公益財団法人中島記念国際交流財団助成による「留学生地域交流事業」として、活動を実施している。年度により実施内容は異なるが、①留学生就職活動準備セミナー、②企業経営者及び人事担当者を対象としたセミナー及び留学生との交流会、③キャリアコーディネータによる面談等は毎年実施している。また、3. に記した実務懇談会及び4. に記した企業の見学会も、就職支援事業の一環として実施している。



就活準備セミナー 先輩による講演の様子



日本文化体験の様子



留学生採用支援セミナーの様子



企業経営者及び人事担当者と留学生の交流会の様子

8. SNS等による情報発信

香川大学HP内に協議会のページを設け、行事等の周知を行っているほか、平成28年度にフェイスブックのページを立ち上げ、活動を周知している。

2017年外国人学生かがわホームビジット

学生を受け入れての感想

川地 真弓

受入日：2017年7月1日（土）

受入学生：Mazanna Matkasim(ブルネイ) =マザちゃん
: Tsai Pei-Chuan (台湾) =ペニーちゃん

日中は、小豆島観光へ行き、そうめん手延べ、箸分け体験をしました。店の方が、そうめん作りの機械を前に、そうめんができるまでの工程を説明してくれ、その後、くっつかないように箸で分けながら伸ばす、という体験をしました。日本語があまりわからない中でも、簡単な英語とジェスチャーで問題なくコミュニケーションがとれ、楽しいひとときでした。

そのままランチでそうめんを食べた後は、しょうゆ蔵の観光をして、実際にいくつかの種類のしょうゆの味見をさせてもらい、しょうゆのミュージアムでしょうゆソフトを食べました。

しょうゆソフトは、留学生にとってもホストファミリーにとっても、不味くはないですが、まあ、1回でいいかな、という味でした。

その後、二十四の瞳 映画村を観光し、写真も撮りました。

夕方には一緒に家に戻り、お友達親子を呼んで、ホームパーティをしました。マザちゃんがムスリムで肉が食べられないので、手巻き寿司をして、友人も高野豆腐の煮物や大根とツナの煮物など、肉を使わない和食のおかずを持参してくれました。味も気に入ってくれたようでした。

私が、マザちゃんやペニーちゃんは子供の国際交流の先生だと話すと、旅の道中やパーティで、時々子どもに日本語で質問をしてくれる姿が、微笑ましかったです。

自分も2人の国や家族についてのおしゃべりで楽しい時間を過ごさせてもらい、おかげさまで子どもたちにもいい経験になりました。どうもありがとうございました。



坪井 誠

受入日：2017年12月2日（土）

受入学生：Roh Jun young (韓国)

今回は初めてのホームビジットの受け入れでした。

遠方にお住いの留学生さんでしたので、家に来るのではなく『屋島、庵治町付近の観光に行きませんか?』と提案したところ、快く了承くださり、一緒に紅葉狩りに行きました。

香川の紅葉が一番美しい時期に、美しい山&青い海の素晴らしい景色を見ることができて、とても良い時間が過ごせたと思っています。

また、沢山母国のお話を聞かせてもらったり、香川に来て不思議に思うことの質問を受けたりして興味深いお話を聞くことができ、大変充実した一日となりました。





やんちゃ盛りの次男がいろいろと悪いことを仕掛けていましたが、寛大な心で笑顔で対応してくれて本当に感謝しています。

ありがとうございました

奥谷 紗織

受入日：2017年7月1日（土）

受入学生：KHAMNIN KULISARA（タイ）

はじめてホームビジットに参加させていただきました。私の家族は英語がほぼ話せないので参加させていただいたものの、どうなるか？と不安でした。

当日は何をしようかと家族で話し合い、日本の文化を体験してもらう為に、私の家に招待し、庭で流しそうめんと七夕の飾りつけをすることにしました。

まずは、流しそうめんの食べ方の説明をして楽しく食事をしたのですが、最後にWAYさんに「そうめんの汁は飲む？」と質問され、『そうめんは飲まないよ』と答えると「ラーメンやうどんは飲むのに、どうしてそうめんは飲まない？」と聞かれ『辛いよ？トライ？』と、日本人には当たり前のことでも海外の人には疑問なことに、改めて文化の違いを感じました。

流しそうめんや七夕の願い事を書きながらWAYさんとタイの話をしたり、日本の話したり、あっという間の時間でした。

WAYさんはとても気が利き、明るく、優しくて甥っ子はWAYさんのことが大好きで帰った後も、「WAYさんと、流しそうめんした！」など楽しそうに話しています。

私の家族にとっても、とてもいい経験になりました。

今回ホームビジットに参加させていただいて、留学生の少しでも助けになっていると嬉しいです。



岡崎 里香

受入日：2017年7月1日（土）

受入学生：Firda Aafira Yulianti（インドネシア）
Siti Nur Ainina Haji Moho Rais（ブルネイ）

二人とも元気な人で、とても楽しい受け入れとなりました。打ち合わせの際に、何をしたいか尋ねると「日本のことなら何でもやってみよう」とすぐに答えが返ってきました。二人ともムスリムということで、食事に配慮のいる青年たちでしたが、嫌いなものはありませんでした。そこで、家で日本料理にチャレンジすることになりました。

ビジット当日、フェリーで直島に着いたときに、なぜか二人とも1Lや1.5Lのジュースを2本ずつ重そうに持ってきていました。たくさん自分で飲みたいのだろう、と思っていましたが、そのジュースは私へのプレゼントだったのです。ブルネイやインドネシアでは家におじゃまするときジュースを持っていくのでしょうか。早朝からの準備の疲れも吹っ飛び、何だか嬉しくなりました。

直島のアート鑑賞では、二人とも堪能できたようでした。また、道に咲く紫陽花など季節の花や、直島に飛んできているツバメの姿がとても気に入ったようでした。

太巻き寿司を作るお屋の時間は、自分達で巻簾を使って上手に作っていました。味噌汁も味を見ながら作り、日本の食事に満足してくれたようです。

アートを見たり一緒に食事を作ったりしながらいろいろとおしゃべりを楽しみ、あっという間に1日が過ぎました。明るく元気な青年たちだったので、一緒に過ごすのがとても楽しかったです。日本への留学のよい思い出になれば幸いです。楽しい時間をありがとうございました。



An unforgettable home visit

Fu Wenting (中国)

訪問日：2017年12月2日(土)

訪問家庭：境 邦子 様

With a pleasant mood I was looking forward to today's trip and host family.

Around 10am, I arrived at kotohira. Kuniko was already waiting at the front door with her children hand-in-hand. Those four kids are so cute and look extremely similar, and after saying hello, we started our journey.



The first place we visited was a museum of the ocean. On the second floor there are lots of steamship models which made by primary students from Kagawa. Then, we went through every floor and learned history about Japanese warships and Ocean industry.

After we finished the museum, our next destination was Konpira Temple. The weather was fantastic. Leaves already turned into red, and there were some fell on the ground became the blanket to welcome visitors. After half an hour we reached the Konpira temple. Kuniko gave everyone one yen and taught us how to pray.



Then we went back and had some udon. We took off our shoes and seated on the tatami. The udon was so delicious that I finished

it in few minutes.



What were we going to do next? Of course, the home-visit. Kids couldn't wait to jump out of the car, and put the kite, soccer ball and fishing net into their bike's basket and rode away. I followed them to a river bank. Children started to flying the kite, riding the bike, laughing and singing. Not a little while, they began to build a stone bridge in order to cross the river; I joined them too.

We were so happy that I smiled like a kid, and this moment reminded me of my childhood.

It was almost time to go home. Kana and Mina built a brick wall into a square shape and decorated with basins of flowers. At the same time, boys were preparing for the chairs which were timber piles. After all, they invited their mother and me to set in their garden and enjoy some dessert.

The night came out unconsciously. Kuniko took me to a language party. There were many people joined. Everyone had the same goal to study and improve the language. We sat together and talked a lot funny things, played games.



At 8 o'clock, the activity was over. I had to go home, although I really wanted to stay and talk more. The kids embraced me tightly which let me really moved. Today was so wonderful. The beautiful view, the joyful smiles, the delicious food and every things became an unforgettable memory in my heart. Thanks a lot to my host family and their cute children who brought lots of joy and happiness to me. I will never forget you and this beautiful experience.

ホームビジットに参加して

Kotekaew Siremon (タイ)

訪問日：2017年12月9日(土)

訪問家庭：坂本 暢 様

12月9日、坂本さんの家族と一日中一緒に過ごしました。坂本さんの家族は三人家族です。暢さん(中国語で読むと、チャンと読みます。なので、チャンさんと呼ばれています。)、かよさん2歳の子供一真くん(ピータン)です。10時に高松駅で待ち合わせしました。かよさんのお友達ももちゃんにも会いました。まず、みんなで行った所は香川県立ミュージアムでした。そこで初めて十二単を体験しました。私はタイで日本の歴史を勉強していたので、本物の十二単を着てみたのは、とても嬉しかったです。見たことがないものですし、しかも



ももちゃん 一真くん かよさん 私 暢さん

着ることもできて、とても感動しました。みんなさんが私のことをかわいいと褒めたので、恥ずかしかったです。



グリーンカレーとナムプリックオーン

それで、有名なシュークリー屋さん行って、三つの味オリジナル、チーズ、ピスタチオを食べました。とてもおいしかったです。一番気に入った味はチーズです。そして、坂本さんの家でタイ料理を作る予定なので、ゆめタウンで買い物しました。タイ料理に合わせため、かよさんがタイ米も買いました。日本ではタイ米の値段が高くて、びっくりしました。買い物した時は4人しかいないと思っていたが、10人の分でした。いつも一人か二人の分しか作ったことがないので、緊張しました。最初はグリーンカレーだけ作ろうと思っていたが、ナムプリックオーンというチェンマイ料理も作りました。みなさんが食べられるようにあまり辛くない味を作りました。料理を作った時、ももちゃんがちゃんとレシピをメモして、みなさんも見に来て、写真を撮ったので、また恥ずかしかったです。みなさんとごはん食べた時、色々なタイ語やタイについて話していました。みんなはちょっと辛いけどとてもおいしいと言って、全部食べてくれました。とても安心ですし、とても嬉しかったです。

最後に行った所は丸亀町です。車に乗っていた途中で瀬戸内海大橋を初めて見ました。ちゃんと見えなかったですけど、きれいだと思います。丸亀町行ったのはヒッポという外国語を勉強するクラブに参加するためです。ヒッポでは大人も子供もたくさん参加しています。みなさんは私と優しく話しかけて、色々な活動をしました。タイ語を教えたり、タイ語バージョンの恋するフォーチュンクッキーを歌ったり踊ったりしました。みなさんと出会って、とても嬉しかったです。みなさん優しくて、タイ語も少し話せますので、私はとても感動しました。また機会があったら、みなさんと会いたいです。今回のホームビジットは初めてで、色々ないい思い出があって、坂本さんの家族とヒッポのみなさんがありがたいです。



ヒッポのみなさん

2018年1月発行

香川県留学生等国際交流連絡協議会

事務局 香川大学国際グループ

〒760-8521 高松市幸町1-1

TEL 087-832-1194

FAX 087-832-1192